注目
ピックアップ

2023年度「福商・経済訪問団」
～海外視察ミッション（スイス、フランス）～

▲チューリッヒ市庁舎での集合写真

福岡商工会議所では、例年、海外ミッションを派遣し、現地の最新の経済情勢や商工業の活動の把握、観光施策やその取組みなどの情報収集を行ってきました。この3年、コロナ禍で中止していましたが、本年、4年ぶりに再開しました。

谷川浩道会頭を団長に、川原正孝副会頭、眞鍋博俊副会頭、永江靜加副会頭、津田鶴太郎副会頭、当所議員、会員企業など17名が、8月17日から26日までの10日間、スイス、フランスの2か国を訪問。環境に配慮した持続可能な観光施策や歴史・文化を活かしたまちづくりの先進事例を視察しました。

スイス

スイスは、**国をあげて環境に配慮した持続可能な観光振興に注力してきました。また住民には、それらを自ら維持しようとする高い意識が根付いており、これが徹底した環境保全に対する取組みにつながっています。**

8/18 チューリッヒ

チューリッヒには、古くはローマ時代の教会など歴史的建造物が多く残っています。その中でも特筆すべきは、**市内に約1,200も点在する噴水**です。アルプスの湧き水やチューリッヒ湖から引いた水などその水源は様々あり、多くが飲用可能で、市民にとっては貴重な飲み水となっています。また、噴水の周囲は憩いの場として古くから愛されており、**今では観光資源の一つとして、行政もPRに力を入れています。**

▲市内の至る所にある噴水

8/18 インターラーケン

インターラーケンは12世紀に建てられた修道院が街の礎であり、18世紀から19世紀にかけて英国人を中心に沸き起こった山岳観光ブームにより鉄道が敷設され、以降、世界に誇る山岳リゾート地として発展してきました。

この一帯はアルプスの山岳地帯が大半を占める山間の街ですが、国中に張り巡らせられた鉄道網などにより、**移動には不便さを感じさせません。その1つであるスイス国鉄の使用電力は、環境に配慮し、約9割が氷河を活用した水力発電でまかなわれています。**

8/19 世界遺産ユングフラウ

ヨーロッパで最も標高が高い場所（3,454m）に位置するユングフラウヨッホ駅は、1896年に着工し、16年の歳月をかけて敷設されました。

2020年にはロープウェイが開通し、麓のグリンデルワルド駅から標高2,320mのアイガーグレッチャー駅までわずか15分。その後、ユングフラウ鉄道に乗り換え、ユングフラウヨッホ駅へ到着できます。このように、スイスでは山岳地帯でも**利便性の高い観光インフラが整備されています。**

▲左からロープウェイ、ユングフラウヨッホ、氷の宮殿

ユングフラウヨッホ駅は、観光施設として飲食、小売店も充実しています。またギャラリーでは、ユングフラウの鉄道施設の歴史やその魅力を幻想的な音と光と映像で紹介するなど、**歴史・文化を伝えることにも力を入れています。この他、下水道は油分を分離して麓の浄水場で処理したり、電力は水力・太陽光発電を利用したりするなど、環境に配慮した運営を行っています。**

8/20 ▶ ツェルマット

▲村内を走る電気自動車と馬車

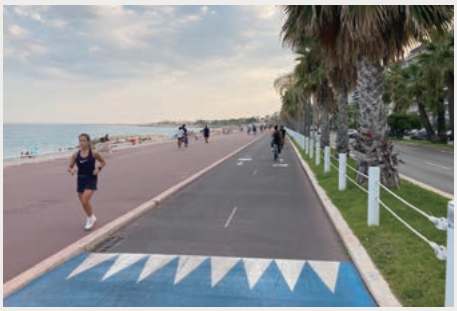
アルプスの名峰マッターホルンの麓の村ツェルマットは、氷河や豊かな自然を保護するため、1988年から**「カーフリーリゾート」としてガソリン車の乗入れが禁止されています。村内の主な移動手段は電気自動車、馬車、自転車**であり、地域住民や行政の協力で環境保全が徹底されています。スイスには、ツェルマットを含め**11の「カーフリーリゾート」が存在し、自然へのきめ細かな配慮がなされています。**

フランス

フランスは世界的に有名な観光地を多く有し、観光は国の重要な産業です。フランスの観光政策は、文化遺産、美食、アート、歴史などの多彩な魅力を世界中に発し、国内外からの観光客を惹きつけています。また近年では、**環境負荷の低い交通手段である「自転車」を中心とするインフラの整備**等に力を入れています。

8/21 ▶ ニース

▲全長7kmにもわたるビーチ


▲歩行者と自転車が分離された散歩道「プロムナード・デ・ザングレ」

地中海に面したニースは、フランス国内でパリに次いで海外からの観光客数が多い街です。リゾート地として有名なニースのビーチは、川から採取した小石を全長7kmにわたる海岸に敷いた人工海浜で、**常に行政がメンテナンスを行い、コストをかけて美しい海岸を維持しています。**

ビーチ沿いには「プロムナード・デ・ザングレ」という道路があり、19世紀に「散歩道」として誕生しました。2020年には市が1,600万ユーロを投じ、**環境に負荷が少ない自転車の専用道路を整備し、歩行者と自転車の共存が進められています。**

8/23 ▶ マルセイユ

▲在日フランス商工会議所ニコラ・ボナルデル事務局長との懇談会

マルセイユは、人口86万人のフランス最大の港湾都市です。現在も旧港を中心に歴史的建造物が多く残っており、古くから貿易で発展してきたプロヴァンス地方の中心都市として、観光客で賑わっています。

マルセイユ商工会議所は1599年に発足した世界初の商工会議所。現在の建物はナポレオン3世の時代に建てられた歴史的建築物として観光資源にもなっています。

今回、夏季休暇でマルセイユに帰省されていた在日フランス商工会議所事務局長のニコラ・ボナルデル氏を現地での懇談会にお招きし、お話を伺いました。

同氏は、「ニースもマルセイユも海岸を大切な観光資源として、行政と住民が一体となって守っている。福岡は、都心から近距離に美しい海と海岸を持っている街である。このポテンシャルの高い観光資源をもっと活かす取組みが必要ではないか。今後、在日フランス商工会議所と福岡商工会議所で福岡の魅力発信に取り組み、相互の観光産業の活性化を推し進めていきたい」と述べられ、参加者と活発な情報交換を行いました。

～今回の視察を通して～

スイス、フランスでは自然・歴史・文化遺産を活かした観光振興のために、行政・地域住民が一体となって環境保全・整備に取り組む努力がなされていました。観光客の増加により、地元住民の生活や自然環境に悪影響を及ぼす「オーバーツーリズム」が日本でも問題視されていますが、最初から観光客を拒絶するのではなく、まずは地域住民の環境を守る意識の醸成と、行動に移すことが重要であると考えられます。

当所は福岡市民の郷土愛の醸成ならびに福岡のさらなる魅力向上のため、「歴史・文化を活かしたまちづくり懇談会」を開催し、福岡市の歴史的・文化的資産を活かしたまちづくりの議論を行っています。福岡市も、海が近く、美しい自然に囲まれ多くの歴史的・文化的資産があり、2か国の事例が今後の取組みの参考となる視察となりました。

お問い合わせ / 産業振興グループ　TEL：092-441-1119